

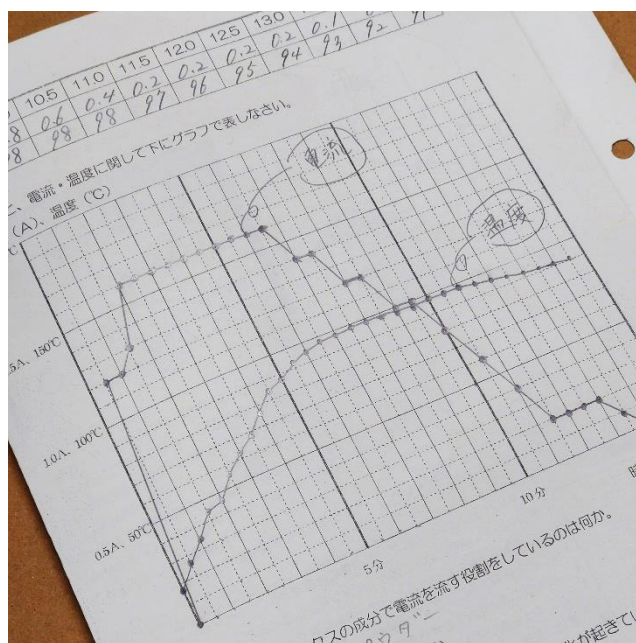
理科の授業について

理科では自分の手を動かして実物に触れ、五感を使って様々な現象や変化を観察し、データを客観的・科学的に分析して整理する経験ができる実験が座学の授業と並んで非常に重要です。

令和2年度は新型コロナウイルスの影響により様々な行事や活動が制限された1年でしたが、授業の中では感染の防止に配慮しつつ、実験や観察の機会を取れるように工夫をしています。



密を避けて観察ができるように、電子黒板を利用して実験装置を映し出し、各自の机でデータを取っています。



近年データサイエンスが注目されています。理科の実験も加工されていない「生」のデータを取り、そこから何を読み取るのかという点では共通しています。紙と鉛筆を使って観察した結果を丹念に記録していく作業から新しい発見が生まれます。



測定器で計測される数値以外にも色やにおい、音など様々な変化を敏感に感じ取ることが大切です。写真は器具を複数人で使いまわすことを避けるため、1人で1つずつ手作りでできる簡単な装置を使って電気分解を行っています。

(参考文献) 宮本一弘. 簡単にできる水の電気分解. 化学と教育, 2019, 67(10), p.470-471.